

第65回愛知県公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時

令和6年8月5日（月）午前10時から正午まで

2 場 所

愛知県三の丸庁舎 8階 802会議室

3 出席者

委員 5人

説明のために出席した者 12人

4 傍聴者

0名

5 議 題

2023年度業務実績に関する評価について

6 議事概要

【2023年度業務実績に関する評価について】

- 評価案を取りまとめて、次回の第66回評価委員会で決定することとした。

【質疑】

2023年度業務実績に関する評価について

○ 委員

議題 「2023年度業務実績に関する評価」について審議に入りたいと思います。

本日は法人にも出席していただいておりますので、まず、法人に確認したい事項等がございましたらご発言いただけたらと思います。

それではただいまご説明がございましたとおり、資料1に基づきまして、法人の自己評価・自己点検がIV「年度計画を上回って実施している」と評価された項番について、一つずつ確認していきたいと思います。

まず項番1について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

(質問・意見なし)

○ 委員

それでは次の項番に移らせていただきます。項番4について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番5について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番22について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

○ 委員

年度計画を上回って実施しているという評価については、異議を唱えるものではございません。ただ、昨年出た意見として、もともとの指標が「年1回以上の開催」とあり、こういったものは、もともと少し低いのではないかと指摘がされておりましたので、このことを改めて確認したいと思います。次回の際に、是非それを反映させていただければと思います。意見交換というのはそれが出発点であり、そこから次の課題が生まれてくるし、またその課題をどう達成するかという段階に至ります。その意見交換会が1回ということでは、どうなのかなと。そういう指摘でございました。

○ 委員

私も同感で、例えば会議の開催数を指標にしてしまうと、本当は1回で済む会議が、3回やれば3倍に評価されることになりかねず、かえって非効率になることもございます。私の勤務校では、会議の回数はできるだけ少なくするのが、効率性の観点から望ましいとされており、できるだけ会議は減らす方向で動いております。会議件数を指標とするのは、第四期中期目標・中期計画では、見直していただくとよろしいかと思っております。その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番25について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

○ 委員

書き方だけの問題ですけど、年度計画には、「継続して実施する」と書いてあるので、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認の欄には、何か新しいものに採択された等について記載するのではなく、前々から実施されてきたものがきちんと継続されて、だんだん良くなっているような内容のことを記載した方が良いのではないかと思います。

○ 委員

先ほどご指摘されたように、「継続して実施する」という年度計画になっているのですが、これも年度計画の記載が若干適切でなかったという印象です。

つまり、継続して実施するというのは、現状維持であり、改善することが示唆されてないと思います。年度計画の策定の際は、文言の問題でもあるかと思いますが、ご留意いただければと思います。その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番30について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

○ 委員

上回って実施しているという評価は、その通りであると思います。その上で、この和声の教科書ですけれども、私も購入して拝見いたしました。こういう学部全体の取組を社会的に問うていくというのは、私も経験があるのですが、結構手間がかかります。教員は、個人の成果としての出版には努力しますが、学部全体としてのものは、なかなかやりにくい面があります。加えてこの出版社は、あまりこういった教科書を出版しないところだと認識しております。それにもかかわらず、基本的な教科書として出版されたということを含めて、素晴らしい取組だと思います。是非とも、今後とも、同様の取組、他の学部においても、取り組んでいただければと願っております。高く評価をしております。

○ 委員

他大学でも、教科書として採用されているのは、非常に素晴らしいと思います。何大学で取り上げられているか、お分かりになりますか。

○ 芸術大学

2023年度より、名古屋音楽大学と金沢大学で、教科書として採用されていることを確認しております。

○ 委員

金沢大学はどういったところで使われているのですか。

○ 芸術大学

金沢大学の人間社会学域学校教育学類というところで、おそらく教員を目指すような課程だと思います。

○ 委員

教員を養成するような大学でも、今後導入される可能性が高いと思います。是非、広報に力をいれて、この出版を宣伝していただけたらと思います。その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番36について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

○ 委員

キャリアサポートに関しましては、特に芸術関係の方の就職率が厳しいと思いますが、今回このガイダンスを、行ってもらう相手については、その業界等に決まりがあるのでしょうか。決まったところが毎年やられているのか、そのあたりを教えていただきたいです。

○ 芸術大学

これはいわゆる企業への就職を目指す学生のために、例えばリクナビとかマイナビといった就職情報会社の方に来ていただいて、企業への就職を目指すためのノウハウ等も含めて、心構えとか、そういった話をさせていただくものです。同時に、芸術家を目指す学生というのは、企業への就職と少し別扱いになりますので、そういった芸術家を目指すような学生に対しては、先輩に来てもらったり、芸術系の企業の採用担当者に来ていただいて、心構えのような話をさせていただくといった内容で実施しております。

○ 委員

そういう業者が中心なのですね。私たちは同友会など経済団体に加入しているのですが、オリンピック選手やスポーツの選手を支援する会社が結構あると感じております。9時から6時まで、年間決められた日数働いてもらわなくても、その選手を支援して、世界に羽ばたかせようという会社もあります。こう

いう活動はとてもいいと思いますので、業者だけじゃないところも、頼ってもいいのかなと思いました。次の計画に盛り込めるのであれば、検討してみてもいかがでしょうか。

○ 委員

弁護士や会計士によるセミナーがあったというところで、確定申告のセミナーもやっているのだと思いました。実は、副収入というような形で、主たる収入を得る部分ではない形で、活動している人たちもいらっしゃると思います。そういう人たちにとって、副収入としての確定申告の必要性について、特に芸能人の方でも、納税の大切さを知らなかったというようなことがあります。実際の芸術家の人たちが今後、様々な部門で活躍する、それも主たる業務じゃないところで活躍していくときにも、こういうことが必要だよというのは、促していく必要があると思います。納税をしてないことのペナルティというのは、社会的に大変大きいので、そのあたりを、当初から教えていくことは重要です。国税庁が推進しているのは「租税教育」と言っても、小学生から税金の大切さを教えに行くのですが、まだそれが100%整ってない状況です。スウェーデン等では、保育園のあたりから教育をするそうです。特にクリエイティブなお仕事される人というのは、主たる収入じゃない部分でやられる方が非常に多くいらっしゃる。実は、医者でも、確定申告をやってなかったのだけど、どうしようという相談がすごくあります。こういうセミナーで定期的に、納税の大切さというのを教えていくというのも、とても大事な業務だなと思って聞いていたので、さらに進めてもらいたいと思います。

○ 委員

キャリアサポートとして、こういうガイダンスを、積極的に展開されるのは、とても重要だと認識しておりますし、指標を上回って、積極的に開催されたことは高く評価したいと思います。一方で、本筋としては、演奏家や美術の専門家を目指す学生のために、例えば、全国にあるたくさんのオーケストラに卒業生を売り込むとか、ネットワークを活用して、採用に繋がるような活動はされているのでしょうか。

○ 芸術大学

全国に多くのオーケストラの団体がありますが、毎年、多くの求人をいただいております。実際そういうところに就職する学生も何人かおりますし、少し変わったところで言うと、自衛隊の音楽隊みたいなのところもあります。先日は自衛隊の方に学校に来ていただいて、そういった活動を目指す学生のために

ガイダンスをしていただいたりとか、そういった取組を学内で行っております。ただ、完全に100%やっているということではないので、今後はそういった就職支援活動を含めて、さらに充実をしていきたいというように考えております。

○ 委員

音楽団体への就職の場合、コーチングというか、オーディションに合格するための指導も、特別に必要なのではないかと思います。そのあたりの非常にきめ細かい、サポートをしていただけると、採用状況が好転するのではないかと期待しておりますので、ぜひよろしくお願いします。その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番39について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

○ 委員

とても素晴らしいと思うのですが、これってホームページ等で全部公開されているのでしょうか。

○ 芸術大学

基本的には、ホームページに掲載しております。

○ 委員

例えば、計画の実施状況の下の方に、文化財保存修復研究所の記載がありますが、こういった内容も、ホームページで開示されているのでしょうか。

○ 芸術大学

記事としては、開示はされておりますが、細かい情報については、まだそこまで掲載されてない部分もあります。今後検討して、細かい情報まで分かるように掲載する必要があるかなと思っています。

○ 委員

何回も言いますが、模写は大変感激しましたので、それこそ著作権の兼ね

合いがあるかと思いますが、了解が得られれば、映像として、ホームページに、こういうのを模写したというのでも載せてもらおうと、素晴らしい取組ということが分かりやすいと思います。文章だけだと分からないところもありますので、是非ご検討していただきたいです。

○ 芸術大学

東山動物園の壁画については、新聞にも掲載された関係で、そういった情報もホームページに掲載しております。

○ 委員

模写は、お返しする前に、県民に対して1日だけ公開するとか、或いは残ったもので、お見せする機会を設けるとか、是非そのように取り組んでいただければと思います。

○ 委員

芸術選奨の受賞、佐治敬三賞の受賞については、前も申しましたけど、大変素晴らしいことであるのですが、今度は逆に言いますと、次の基準が一挙に高くなってしまうことにもなります。むしろ、日常的な活動をどういうふうに評価し、アピールするような客観的な基準をつくれるかということが重要になります。前から度々申しておりますけど、科研費も、もちろん重要なのですが、それになかなかそぐわないけれどもこういう活動があるというのをぜひ積極的にご提案していただきたいなと思います。この受賞を貶めるといった意図は全くございません。素晴らしい賞であるがゆえに、かえって次回以降、成果がみすぼらしく見えてしまうようなことがあってはいけないと思いますので、よろしく願いいたします。

○ 委員

第四期中期目標・中期計画の指標については、後日、別途議論する機会があるかと思いますが、その際にご意見をいただければと思います。その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番40について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご

質問、確認事項等はございますか。

○ 芸術大学

これにつきまして、補足をさせていただきたいと思います。前回の委員会で、項番40の指標について、色々ご意見、ご議論があったかと思いますが、今の指標の、その他助成金に算入している件数につきまして、現在としては公募に申請した件数のみを対象としております。つまり相手方からの依頼があって実施している受託研究とか、共同研究の件数、或いは社会連携事業については含めていないという状況でございます。第四期にどのような指標を設定するかについては、学内でこれから検討して、整理していきたいというふうに考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○ 委員

ご説明ありがとうございます。それによって件数が変わってくると思いますので、どのような指標を策定するかも重要ですし、カウントの仕方も、慎重に行っていただきたいと思います。

○ 委員

中期計画や年度計画のところに、体制の点検とか、環境の整備と書いてあります。この結果は素晴らしいと思いますが、その結果をもたらすための、申請のモチベーションを上げるために実施したこととか、それが機能したのかというところについても、どこかに書いてある方がいいと思います。言葉で申請しなさいって言ったところで、多分皆さん申請しないと思うので、何か実施していると思います。そういうことを、きちんと点検と整備をしましたということが、どこかに記載されていてもいいかなと思いました。なければ、今後考えていけばいいし、やっているのであれば、それが効果をもたらしたかどうかということも、チェックになると思います。

○ 芸術大学

実際は、何か取組をしているかっていうと、なかなかしてないところもありますので、これから第四期に向けて学内で検討していきます。

○ 委員

名工大の例で言うと、例えば、科研費も、ワンランク上げるということが重要で、特に若い方が申請する際にワンランク上げて申請した方が、データの当たりやすいとか、色々あります。学長や理事が少しモチベーションを上げた

りとか、逆に申請しないと、別の学内の予算に申請できないとか。制約と持ち上げるのと両方やっていったら良いのではないかなと思います。名古屋大学はどうですか。

○ 委員

かなり組織的に取り組んでおりまして、本部に I R という部門があり、そこが全教員の外部資金申請・採択状況データを持っています。個々の教員が過去 5 年間に、科研費のどの分野で申請し、あるいは申請しなかったか、採択されたか、されなかったかというデータを持っています。このデータは部局長に共有されており、本部から毎年、部局長に、誰々が申請していないので、申請するように言ってくださいという依頼が出され、部局長から、当該教員に申請するよう要請が行われます。また、本部で、どの分野、どのカテゴリーだと採択されやすいかという分析も非常に詳細に行っております。さらに、事前に科研費の作成書類をチェックする仕組みもありまして、本部から依頼された、経験豊富な教員が、新たに申請する教員の申請書をチェックするなど様々な制度があります。研究環境整備や支援体制の充実については、組織的にできることはたくさんあるかと思っておりますので、ご検討いただければと思います。その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番 4 1 について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

○ 委員

中期計画に、「自治体、他大学、産業界」とございますけれども、実は今建築業界とかデザイン業界、住宅業界だけではなく、技術者・開発者の中でもデザインを非常に重視している会社がございます。次回の取組といたしまして、産業界のところでも、経済団体にも働きかけると、かなり反応があると思しますので、ここは積極的に学長に期待したいなど、強く思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○ 委員

今のお話を聞いて思い出したのですが、確かどこかのロータリークラブ

と提携していましたよね。

○ 芸術大学

名古屋中ロータリークラブと連携しておりまして、今年度ですけども、「こども芸術大学」というイベントを実施する予定です。子供たち100人強を大学に招いて、いわゆる芸術を体験させようという取組を、今年の10月に実施を予定しております。

○ 委員

経済同友会もありますし、ライオンズクラブとかもありますので、そこと提携するのもいいですし、そこに属している会社の社長さんとかもいらっしゃいます。先ほどのお話もすごく良いなと思って聞いておりましたので、よろしくをお願いします。

○ 芸術大学

新しい学長もそこに向かって動いているので、また来年度良い報告ができると思います。また随時ご報告させていただきます。

○ 委員

その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

(質問・意見なし)

○ 委員

続きまして項番48について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますか。

○ 委員

指標としては、「毎年2回以上を開催する」となっておりまして、厳密に言うとうと、上回っていると言えるかどうかは若干微妙ですが、私自身としては、会議の開催回数を指標にするのは、あまり適切ではないのではないかと考えております。

○ 大学法人

どちらかと言うと、アントレプレナーシップの活動をやるとともに、2大学

連携を実施するという、内部と外部の構成になっておりまして、その外部の方のところの部分で、一生懸命やったという部分を評価させていただいております。

○ 委員

これは、会議とイベントが2回以上ということでしょうか。

○ 大学法人

指標自体としては、法人内部の芸術大学と県立大学の連携会議だけの指標となっております。それで、年度計画としましては、外部の機関と連携して、色々な事業を積極的に展開するという内容もありますが、指標はその部分には該当しないので、このようなことが起きていると思います。

○ 委員

次回から、アントレプレナーシップを学ぶにあたって、本当は発表していくっていうことの方が大事だと思います。今、コンテストみたいなものを、商工会議所や企業の支援をもって、開催している回数が多くなってきております。学生が何かを提案して、参加して成果を出し評価してもらおうということも考えるとやりがいがあると思います。

○ 委員

今話にも出たように、今までの委員会においても、指標については、結構厳格に捉えていて、あくまでも指標がある以上はその指標に縛られると。やっている中身は素晴らしいけれど、どうしてもこの指標がある以上は、上回っているとは言えないと、以前議論していたような気がするので、ここは議論をしなければいけないのかなと思います。

○ 委員

悩ましいところでして、参考資料として、お示しいただいております指標の達成状況についての一覧資料を拝見しますと、項番48については、去年も実は、会議の開催回数2回でIV評価にしているのですね。ですから、前例があるとも言えるわけですが、そこをどうするかですね。改めて、今回、厳格に指標がある以上、あくまで指標に従って評価すべきという指摘も、重要なポイントだと思いますので、この場でご議論いただきたいと思います。

○ 委員

前日もそういう前例があるというのであれば、それ以外の中身の部分を評価し、十分値するという結論であっても、違和感はないのかなと思います。きちんと話をした各委員の皆さんのご意見が出た上でご判断された方がいいかなと思います。

○ 委員

いくつかこういう指標があったように思いますけども、次回の中期目標中期計画の策定時には、指標づくりが重要だと改めて思いました。たびたびこのように評価委員の方で戸惑う指標がございますので、回りの指標づくりにつきましては、慎重に、きちんとせつかくの成果が捕捉でき、きちんと反映できるような指標づくりが必要だと、改めて思う次第です。

○ 委員

実際にプロジェクトが始まれば、小さな打ち合わせはもう頻繁にしなければいけなくなります。もう1回2回なんていうものではなくて、電話連絡なんというものまで含めれば、1日に何回もということにも当然なっていくので、そこは1つ迷っていたところことです。ただ、実際にこういう具体的なプログラムがあったということなのでいいかなと思ったことが1つです。それからもう1つ、このアントレプレナーシップの問題は、県立大学よりも芸術大学の方により当てはまるのではないのでしょうか。つまり、美術も音楽も、最終的には自分でプロデュースして、売り込んでいく。そういうことがどうしても不可欠になってきます。たしか東京藝大は、もう20年ぐらい前に、そこに特化した新しい学部を作っております。前も申したのですが、この点については、県立芸大はまだ弱いのではないかなと思っております。せつかく優秀な学生が育ち、卒業しても、その学生がうまく自分の能力を、アピールすることができないのであれば、意味がありません。これについては、むしろ芸大の課題だと。それぐらいに思っていたらいいのではないかなと思います。

○ 委員

そもそも、指標を策定する段階では、私たちは承認しているという前提でよろしいでしょうか。

○ 事務局

指標につきましては、6年前の平成30年の評価委員会の時に、ご意見を伺うということで評価委員に諮っております。

○ 委員

その指標の策定段階で、もっと気付きがあれば良かったかなと思います。あと、結果的にこれも引きずる必要はないと思います。どんどん世の中はスピードが非常に早く変わってきているので、年度計画を実施しているが、次に向けてもう少し努力を必要とするという判断で、評価を若干下げても良いのかなという気持ちも色々な話を聞いて少し出てきました。

○ 委員

評価を下げてもいいのではないかというご意見をいただきましたし、指標に縛られず、実績を出しているので、開催された会議をもとに、様々なプランや事業が展開されていることから、Ⅳ評価でもいいのではないかというご意見もいただきました。さて、今日評価結果を確定するということではございませんので、両論併記していただくような形で、次回、最終的に決定するのでもよろしいかなと思います。よろしいですか。

○ 委員

先ほど説明がございましたとおり、前回の委員会で、Ⅲ評価の項番については、議論がございましたので、今回、この資料1には自己点検の結果がⅣ評価、年度計画を上回って実施しているという項番について、その評価が妥当であるものを、評価案としてリストしていただいております。ただし、過去には、自己評価の結果がⅢ評価でしたけど、評価委員会の結論としては、もっと高くてもよいのではないか、Ⅳ評価でもよいのではないかという場合もございました。今回、リストには掲載されておりませんが、委員の皆様から、そのような項目がございましたら、この場でご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。前回の委員会では、特に議論になる項番はございませんでした。

(意見なし)

○ 委員

特にご意見がないようですので、それでは、全体評価に移りたいと思います。それでは、全体評価について、確認等ございますでしょうか。

○ 委員

「また」のところなのですが、「また、業務運営の改善及び効率化に関しては」って、その上のところでは県大と県芸大の話をしていますよね。そうす

ると、「また」と言ったときに、その後ろの方に、「両大学における高校生向けの教育プログラム」とあるので、「また両大学とも、業務運営の改善及び効率化に関しては」と記載した方が、話として入りやすいのではないかなと思います。もしそうした場合は、「活用した両大学」という記載はいらなくなるのかなと思って読んでいました。

○ 委員

三段落目ですね。「また、両大学とも、業務運営の改善及び効率化に関しては、科学技術振興機構の補助金を活用した高校生向けの」という感じでしょうか。

○ 委員

業務運営の改善及び効率化に関してはと読んだ時に、法人部門のことを言っているのかと思ってしまったので。

○ 委員

JSTの補助金を活用した高校生向けの教育プログラム実施自体は素晴らしいのですが、よく考えると、これは業務運営の改善及び効率化に該当するのでしょうか。効率化とは少し違う話のような気がします。

○ 事務局

そちらの記載につきましては、法人の取組に関して、項番48番のところを2大学連携の取組というところで、高く評価しているということで、記載させていただいております。教育プログラムを実施したのは、両大学ですが、その支援を行ったということで、法人の取組を高く評価していますという記載になっておりますが、少し分かりにくいというご意見もございますので、また修正して評価委員の皆様にお示しさせていただきたいと思います。

○ 委員

そういう意味では、両大学の連携を法人が支援したということは、記載内容では、確かに読み取れないので、もう少しその意図が伝わるような記述にさせていただけますとありがたいです。

○ 委員

第2段落は、それぞれの両大学の教育研究成果に関する記述になります。だとしますと、最後の愛知県民の日連携事業、これらは、その地域貢献になり

ますので、むしろこれを、後の段落の方に入れた方が、すっきりするのではないのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○ 事務局

それぞれの大学において、教育・研究・地域貢献という3本柱で、それぞれ中期計画が定められております。それぞれの大学でその3本の高く評価した取組を一行にまとめておりますので、そういった意味で、法人の取組の中に、愛知県民の日の連携事業とか地域連携を入れてしまうと、構成がおかしくなってしまうと思います。分かりやすくする表現ということはちょっと改めさせていただきたいと思いますが、項目のまとめ方としては、この記載内容で整理させていただきたいと思います。

○ 委員

どちらかと言うと、民間企業的な書き方を期待してしまうのですけれど、「第三期中期目標期間の最終年」という記載がありますが、「最終」という言葉を2回入れる必要がないと思います。これが最終ではなく、2024年は確実に達成し、次なる目標への礎として欲しいとか、飛躍に向けて欲しいとかというふうに、民間企業だったら書いてしまうかなというふうに思っていました。今までの書きぶりもあると思いますので、参考までに。

○ 委員

たしかに、「最終的な達成」というのも少し違和感がありますので、この表現も工夫していただければと思います。第二段落のところ、「精力的な活動を行ったこと」とありますが、受賞自体は活動ではなく、活動の結果が評価されたことですので、ここの表現も変えていただいた方が良いかなと思います。「精力的な活動が高い評価を受けたこと」というような表現になろうかと思えます。その他の評価項目等も含めまして、この場でご確認いただくことはございますか。

(意見なし)

それでは、評価案について取りまとめていきたいと思えます。法人の皆様はご退席をお願いします。

(法人退席)

○ 委員

それでは、評価案を確定させていきたいと思います。先ほど議論になった項番48以外は、「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 委員

それでは、項番48ですが、これは「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

ここについては、指標は、「会議を年2回以上開催する」となっておりますので、3回でも4回でも、指標通りとなってしまいます。指標の解釈をどうするかと言うことと、指標は回数をカウントするのですが、そうではなくて、実態として、様々な活動が展開されていることを評価するかという2つの論点があると思います。先ほども若干意見が分かれておりました。

○ 委員

実際に、それこそパリでシンポジウムをやろうとすると、毎日のように色々やりとりがあるはずですが、確認とか打ち合わせも含めると、非常に頻繁に、会議が行われていただろうと思います。

○ 委員

実際に会議については、1つの議題に対して、何回やろうとワンカウントだと思いますが、先ほどの話ですと、計画以上にやっているという意味では後者の解釈で良いのではないかと思います。

○ 委員

この全体評価は、県議会に向けて出すものであろうと思っております。県が行っている、県立大学・芸術大学の活動について、県のお手盛りではなくて、外部のものが、議会に対して、きちんとやっているということを報告する。それから、6年前には、まだこの連携といったこと自体が、具体化もしていなかった。それが具体的な会議が発足をして、議論が始まり、課題が設定されて、それが実際に達成されている。それを考えるならば、上回っているという評価でもよいのではないかと思います。ただ、一度作った指標というのは、そのあとずっと残っていつてしまいますので、この点については、次に指標を作るときに、検討や配慮する必要があるかなあと思います。

○ 委員

そうすると、2大学による連携事業を検討・推進するための定例会議を2回開催したほか、その成果としての活動が展開されたということが分かるような書きぶりにしていただくとよろしいかもしれないです。記載内容について、もう少し工夫して記載をお願いします。

○ 委員

それでは、項番48についても「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」で良いというご判断をいただきましたので、評価Ⅳで確定させていただきます。

(異議なし)

○ 委員

それでは、時間がまいりましたので、確認等が必要な事項につきましては、事務局から個別に委員の皆様にご意見を伺うこととして、最終案の取りまとめについては、私と事務局に一任していただくこととしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 委員

ありがとうございました。それでは、本日いただいた御意見をもとに、評価結果案を取りまとめた後、法人へ意見の照会をいたします。次回、8月27日に開催する第66回評価委員会では、法人から提出された意見を踏まえ、業務実績評価を決定する予定です。また、前回の評価委員会でもご説明したとおり、「中期目標期間終了時の検討に対する意見の検討・決定」及び「中期目標案への意見検討」も行う予定です。本日予定しておりました議題は全て終了いたしました。他にご意見等が無いようでしたら、終了したいと思います。よろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは、第65回愛知県公立大学法人評価委員会を終了いたします。ありがとうございました。

以上

会議録署名人

会議録署名人